



区画整理によって市街化された行徳駅前周辺

行徳町が市川市と合併し

たのは、昭和三十年三月三十一日のこと。翌三十一年十月一日には、南行徳町も市川市と合併しました。この合併によって、市川市は海に出ることができ、さらに工場誘致を目的に、三十二年から「公有水面の埋立事業」に取りかかりました。

行徳町、南行徳町の地域は、行徳街道沿いに町並みがつくられていました。そして、海岸は塩田として開発された地域で、その塩田跡は田畑や蓮田となって残されていました。しかし、埋立事業が進むにしたがい、将来は市街地として発展することを考えて、土地の区画整理事業が行われるようになりました。昭和四十一年に南行徳第一と第三土地区画整理組合が設立認可を得て以来、南行徳第二（四十二年）、行徳（四十三年）、行徳北部（四十四年）、行徳南部（四十五年）、行徳中部

## 区画整理とともに発展

### 行徳地域の新町名(1)

（四十六年）の各土地区画整理組合が認可を得て事業にかかりました。その結果、今までの耕地、蓮田、荒地などが整理されましたが、各地域には大字の飛地が入り乱れていました。そこで、それぞれの地域に新しい名称がつけられることになりました。

昭和四十八年に誕生した新町名には、「南行徳」と「福栄」があります。四十九年

には「行徳駅前」、「末広」、「住吉」、「入船町」、「日之出町」、「新浜」が誕生しました。

「行徳駅前」という町名は、四十四年に開通した営団地下鉄東西線の行徳駅を中心にした地域であることから命名されました。「新浜」は、江戸期の塩田開発によって海岸線が前進し、その新しくできた海岸を称したものです。「日之出町」、「入船町」の名称は、海に近いことから付けられたものですし、「末広」、「住吉」、「福栄」は、めでたい佳名を付けたものです。

次いで、五十年に「富浜」、「塩焼」。五十一年に「新行徳」、五十二年に「宝」、「幸」、五十三年には「本塩」が誕生しました。そして、それぞれの地域に住居表示が実施され、現在に至っています。「塩焼」、「本塩」は、かつて行徳の海浜で製塩が行われていたことを残すために付けられた新町名です。この中で、昭和四十九年に誕生した「住吉」と五十一年に誕生した「新行徳」は、住居表示の結果、五十三年に姿を消してしまいました。

区画整理によって新しく生まれ変わったこの地域は、地下鉄東西線が都心と直結するところから、たちまちマンションが建ち並ぶ新興地域になりました。

今回は「行徳地域の新町名(2)」を予定しています。

（社会教育指導員

綿貫喜郎）